

## 私たちが直面する敵

### 反キリストの霊

これは、「私たちが直面する敵」シリーズの第三回です。最初の2回では、サタンの王国の性質と構造について学びました。そして、神の国とサタンの王国という、2つの対立する王国があることをお話しました。どちらも霊的なものであり、どちらも今の時代に実際に私たちの目には見えないものですが、非常に現実的なものです。そして、ルシファーという、神に反逆して御使いのグループを率い、新約聖書で「空中」と呼ばれている領域に敵対する王国を作った、一人の大天使のサタンの王国の起源までさかのぼってみました。この「空中」というフレーズは、実際、エペソ人への手紙で5回出てきており、教会に対する神の啓示が明らかにされているみことばの主な部分です。空中を強調していることは、偶然ではないと私は思います。イエス・キリストの教会は、空中に確立されたもう一つの王国に対立して、空中で働いていると考えられています。混乱している人のためにお話しますが、聖書の最初の節から、「天」という単語は複数形なのです。一つ以上の天があり、私たちの住む地球と神のおられる天の御座との間に、神に敵対するサタンの王国があります。

そして、第2回では、サタンの王国の主な活動の一つであり、その力が現わされる主な方法の一つが、魔術であることをお話しました。多くの人々は、魔術はすでに消え去った、何か中世の時代のような古臭いものと考えているかもしれませんが、それは全くの誤りです。魔術は、まさに現実で、人間の歴史の中で今日ほど活発に働いていることはないと思います。そして1世代前にクリスチャン国と呼ばれた多くの国々では、こんにち、魔術による激しい活動が広がっています。

3つの領域で簡単に魔術の定義を説明したいと思います。第一の領域は、**肉の行ない**として人間の墮落した性質をそのまま表す方法の一つで、3つのキーワードがあります。**操り、脅迫、支配**です。魔術の狙いは、単純に、他の人々をコントロールし、自分がその人にしてもらいたいことを人にさせることです。魔術は反逆と密接に関連しています。それは、人間の神に対する反逆の外堀です。

第二の領域では、魔術は、様々な側面と段階を備えた一種の**超自然的なサタンの宗教**です。ほとんどの国において、魔術の祭司は呪術医と呼ばれます。大部分は太古の昔からあり、人々が魔術と関わって来なかった地域は地球上には一つも見出すことができません。そして、世界の非常に多くの地域で今もなお、魔術の霊的な活動が広く行われています。

そして第三の領域は、**教会内の魔術**で取り扱った、サタンの見事な一撃の一つです。パウロは、ガラテヤのクリスチャンに宛てた手紙で、「ああ愚かなガラテヤ人・・・だれがあなたがたを迷わせたのですか。」と言っています。そして十字架のイエスのみわざが覆い隠されるという事実によって、彼らが迷わされた証拠を見ました。そして、それを通して彼らはイエスが与えてくださったあらゆる特権を奪われてしまいました。この魔術の働きは、2つの主なものにおいて、教会の中でその姿を現わしました。それは、霊よりも肉に頼る、という**肉の欲**と、肉の欲の外堀である**律法主義**です。私の誇張でないと思いますが、ほとんどのキリスト教教会はその記述と一致しているのではないのでしょうか。教会は超自然的な恵みと聖霊の力に背を向け、今や人間的な方法、人間的努力に頼り、ある意味において、あらゆる

類<sup>たぐい</sup>の律法主義のシステムに縛られています。キリスト教は一連の規則ではないと私が言うと、人々は驚いて私を見ることがありました。もし私が、「神はいない」と言ったなら、ほとんどの人はもっと容易に受け入れるのではないかと思います。

今日は、サタン王国について、また神とイエス・キリストの教会に敵対するサタンの次なる主な外堀に進み、本日のタイトルである反キリストの霊に向かっているものを取り扱いたいと思います。まず、これについて書かれているヨハネの第一の手紙を開きましょう。第一ヨハネ 2:18-23 です。

「小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今が終わりの時であることがわかります。彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためなのです。あなたがたには聖なる方からのそそぎの油があるので、だれでも知識を持っています。このように書いて来たのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知っているからであり、また、偽りはすべて真理から出てはいないからです。偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。だれでも御子を否認する者は、御父を持たず、御子を告白する者は、御父をも持っているのです。」

まず、「反キリスト」というなじみの薄い言葉の本当の意味をごく簡単に説明してみましょう。何よりも、「キリスト」という単語はギリシャ語の *christos* から来ており、それはメシヤの語源となったヘブル語の *Mashiach* と完全に一致しているということを心に留めておく必要があります。あまりにも多くのユダヤ人とクリスチャンが、メシヤとキリストが同じものを表わす 2 つの異なる単語であることを理解していないのは驚きです。ですから、私たちが「反キリスト」と言う時、それは反メシヤという意味です。私たちがメシヤという言い方を用いるなら、おそらく理解しやすくなるでしょう。

そして、前置詞の「反」*anti* は、ギリシャ語の前置詞です。それには 2 つの意味があり、そのどちらもあてはまります。一つ目は、「反対する」という意味です。ですから、最初の作用は、メシヤへの反対です。2 つ目の意味は、「～の代わりに」です。つまり、最終的な目的は、真のメシヤの代わりに、にせのメシヤを置くことです。

この力は、まずメシヤを排除し、次にメシヤの代わりに偽メシヤを置くという風に作用します。ですから、完全な作用が 2 つの段階であることを理解し始めるとき、あなたは、反キリストの霊が教会と公言しているほぼすべての中において激しく活動していることがわかると思います。

妻と私には、アメリカで伝統的福音派の流れをくむ教会に行っている友人たちがいます。その教団名を言うつもりはありませんが、ある日彼らは私に言いました。「私たちの教会では仏陀について話しても構わないし、ソクラテスやプラトン、キング牧師について語っても、誰も腹を立てないけど、イエスのことを話すと、みんな起こりだすんだ。」それは何でしょうか。反キリストの霊です。真のメシヤを取り除くという第一段階です。しかし、私たちはみな、それがサタンの最終目的ではないことを心に留めておかなければなりません。サタンの目的は、真のメシヤの代わりに偽メシヤを置くことです、それこそ、私たちが取り扱うものです。

それを理解し始める時、サタンの特定の働きは、イエスが説教される場所でのみ適用できるということが明らかになります。イエスについてまったく聞いたことがないなら、イエスを拒絶することはできません。ですから、魔術はそうではなく、魔術は墮落した全人類に関わるものです。事実、私がお話ししたように、それは様々な形式や式典を伴う、墮落した民の至る所に見られる宗教です。しかし、反キリストは、まずキリストについて語られた場所でのみ現わされるのです。

イエスの公生涯の初めに、荒野での誘惑において、通常の翻訳では、イエスは、「引き下がれ、サタン。」と言ったとマタイの福音書に記録されています。しかし、それをできるだけ完全な翻訳にすると、「私のあとに従え。」です。そして、それはイエスと福音が宣言されるどこにおいても、従わないという選択を神が許可するという霊的本質であると信じます。事実、人間は、真のメシヤと偽のメシヤのどちらかを選択しなければなりません。それは私たちを取り扱う神の方法の一部分であり、神は間違った選択を排除せず、正しい選択をすることは私たちの責任なのです。これは私たちの世代に非常に関連していると思います、この世代は、真のメシヤか、偽のメシヤのどちらを選ぶかを決断しなければなりません。反キリストの霊は、みなさんが考え得る以上に非常に活発で、間違った決断へと私たちに圧力をかけています。

ヨハネの手紙第一 2 章を読みましたが、同じくヨハネの手紙第一 4 章 2、3 節を読みましょう。

「人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。」

先ほどの 2 章の部分と 4 章の部分に合わせてみると、反キリストの 3 つの形が見えてきます。第一に、**多くの**反キリストがおり、人類の歴史の中実に多くの反キリストが現われ、また明らかにされてきました。

第二に、多くではなく、ただ一人の特定の反キリストがいます。それは、反キリストの霊の最後の出現、最後に生み出されるもので、私が知る限り、人類の歴史にはまだ現れていません。私はよく人々に、「反キリストの陰は、すでに舞台の向こう側に落ちたと信じますが、私たちはまだ、その実在の人物を見ていません。」と語ります。しかし、この時代の終わりにあって、聖書がはっきりと言っているように、一人の最終的な、最高に邪悪な、最高に力強い支配者が短い期間全人類を支配する、反キリストが現れるでしょう。

第三に、反キリストの霊のかたちです。反キリストの霊は、すべての反キリスト者を通して働きます。ヨハネが言っている、反キリストの霊の特定のしるしは非常に重要です。まず、神の民の仲間として始まると第一ヨハネ 2:19 で言っています。

「彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなったのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためなのです。」

ですから、反キリストは常に、何らかの形で神の民の仲間として始まります。しかし、本当に神の民に属しているのではなく、やがて明らかにされるのです。それが反キリストの霊の一つのしるしです。

次に、イエスがメシヤであることを否定します。第一ヨハネ 2:22。

「偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。」

そして、イエスは3つ目の反キリストのしるしを語ります。

「御父と御子を否認する者、それが反キリストです。」

これは、非常に重要です。反キリストは、神の存在を否定しません。実は、神の代表となると主張します。反キリストが否定するのは、神格を持った父と御子の関係です。そして、その否定に遭遇するところでは、おそらく反キリストの霊に直面するでしょう。

そして、第一ヨハネ4章で与えられている反キリストのしるしは、メシヤがすでに来たことを否定します。おそらく、メシヤがやがて来ると信じてはいますが、すでに来られたことは否定します。その4つのしるしは非常に重要ですので、おさらいしましょう。

第一に、反キリストは、神の民と仲間になることから始める。

第二に、反キリストは、イエスがメシヤであることを否定する。異教徒はイエスの事すら聞いたことがないので、異教徒ではありえないことは明らかです。

第三に、反キリストは、神格である父と御子の関係を否定する。必ずしも神を否定するわけではありませんが、父と御子として啓示される神を否定します。

第四に、反キリストは、メシヤがすでに来られたことを否定しますが、メシヤがやがて来るといことはきっと教えるでしょう。

では、歴史的な霊を取り上げましょう。今から私が言うことは、いくら議論的であることを認めざるを得ません。

真理に関する問題は、議論的となりやすいものです。私は誰に対しても不快感を与えたくありませんし、他の宗教を攻撃したいともまったく思いません。私は真理を示したいだけです。しかし、最初であり、最も長期間継続している反キリストの霊は、ユダヤ教です。

私たちはこれまで、キリスト教はユダヤ教から枝分かれしたものだと考えてきましたが、それは、基本的にユダヤ人が語ることです。私はユダヤ人ではありませんが、妻はユダヤ人で、私たちはユダヤ人ととても親しくしています。私はそれが真実ではないとわかるようになりました。何が起こったかと言うと、キリスト教、つまりイエスとその弟子たちの教えで、これまでずっと従ってきた多くの教会の教え全体ではなく、イエスと弟子たちの教えは、旧約聖書の宗教の真の継続です。ユダヤ教は旧約聖書から分岐しました。それを理解することは非常に重要で、特にユダヤ人と関わる際に重要となります。

それが、最初のしるしです。神の民との関わりから始まります。私はユダヤ教の専門家ではありませんが、ユダヤ教の教えを分析すると、多くがイエスを信じることへの無意識的な拒絶です。教えられていることの多くは、イエスの主張を否定する方法です。

ユダヤ教における反キリストの第二のしるしは、もちろん、非常に単純です。イエスはメシヤであるが、やがて来られるメシヤであることを信じています。

第三に、神格である父と御子の関係を否定します。神の子であるというイエスの主張を拒絶し、神に子がいることを認めません。

そして第四に、すでに言ったように、メシヤがすでに来られたことを否定します。

興味深いことに、1988年エルサレムの町のすべての大通りに、立派なポスターがヘブル語で貼り出され、「メシヤが来られた。もしメシヤに会いたいなら、いつの日曜日にオリーブ山に行けば、そこで会えます。」というものでした。美しいポスターでした。誰がそれを印刷したのか全く分かりません。何が起きているのかを見るために一人のジャーナリストがそこへ行きましたが、メシヤを見つけることはできませんでした。しかし、それは、この問題がどれほど現実かを表わしています。もし、思いやりを持って、メシヤという言葉を使ってユダヤ人と話すなら、彼らの目の色が変わるでしょう。なぜなら、ユダヤ人にとってメシヤという言葉は特別な重要性を持っているからです。

あなたが私の考えに同意しなくても全然かまいませんが、一つ提案したいと思います。マタイ 27 章の一つの節を見ましょう。この節は反キリストの最初の現実的な力強い表われであると思います。マタイ 27:21 です。イエスは、総督ピラトの前に連れて行かれました。ピラトは、イエスに何の過ちも見出せませんでした。ユダヤの宗教指導者たちはイエスを訴え続け、イエスに反対するようにユダヤ人の全群衆を扇動しました。そして、忘れてならないことは、その群衆の全員がつい一週間前にはエルサレムに入られるイエスをしゅろの枝を振って、「祝福あれ。主の御名によって来られる方に歓迎した同じ群衆でした。それは、私たちが無視すべきでないものを表わしており、それは、人間はあまりにも移り気だということです。彼らの態度を完全に一変させるために一週間以上かかりませんでした。それは自然な人間の反応であったとは思えません。私が思うに、見えない領域でもすごい霊的戦いがあり、残念なことに、反キリストの霊が勝ってしまいました。そして、これが起こったことです。総督ピラトがイエスを連れ出し、こう言いました。「その祭りには、いつも一人の囚人をひとりだけ赦免するのが習わしです。あなたがたは誰を釈放してほしいのか。バラバか、それともイエスカ。」バラバは、政治的扇動者であり、殺人犯、暴力的な男でした。バラバは一つとして良いことをしたことがなく、一方イエスは誰にも危害を与えたことがありませんでした。イエスは何千人もをいやし、祝福し、食べ物を与えました。イエスに敵対する論理的理由は一つとしてありませんでした。それは、論理ではなく、霊的力が働いていたのでした。そして、このマタイ 27:21 は、鍵となる節であると思います。

「しかし、総督は彼らに答えて言った。『あなたがたは、ふたりのうちどちらを釈放してほしいのか。』」

私の意見は、イスラエルは、人類に起こることの一種の反対の型です。なぜなら、人類は最終的に「2つのどちらか。」というこの選択に直面すると信じます。救い主、癒し主、義なる方イエスを望むのか、それとも邪悪で暴力的、政治的扇動者バラバを望むのか。ある意味において、バラバは反キリストです。そして、彼らを選んだのは…バラバでした。私たちには彼らを指さすことはできません。その時が来たとき、同じ間違いをしないように私たちは気を付けま

しょう。群衆に急速に働いて一変させる霊的な力がありました。そして、彼らは原因のまったくない、怒りと嫉妬にほとんど発狂したようになりました。私は個人的に、それが反キリストの霊が初めて人類に影響を与えたときであると信じます。それは、ある意味で、その時から現在までユダヤ人を支配しようとしてきたものです。

イエスは、彼らに警告しました。ヨハネ 5:43 を見ると、彼らはこの時点でメシヤ、神の御子であるとの主張に異議を唱えていました。

「わたしはわたしの父の名によって来ましたが、あなたがたはわたしを受け入れません。ほかの人がその人自身の名において来れば、あなたがたはその人を受け入れるのです。」

さて、それは紛れもない事実であると証明されました。言い換えれば、「私は真のメシヤですが、あなたは私を受け入れません。にせのメシヤがその人の名で来れば、あなたはその人を受け入れるのです。」となります。そして、ユダヤの百科事典は、およそ 40 人の偽メシヤがそれ以降現われ、ユダヤ人によって受け入れられたと記録しています。その偽メシヤの名前をいくつか挙げると、最も有名なのは、138 年にローマに対して反乱軍を率いたバル・コクバであると思います。そして、5 世紀ごろにはクレタ島のモーセという人が、人々にクレタ島から海の中に入って歩くとメシヤに会うと説き伏せ、何千人もが海に入り、溺れました。そして、奇蹟的な年となるはずであった 1666 年、メシヤであると主張したサバタイ・ツヴィは、多くの人々から熱心に受け入れられました。

ユダヤ教の間違った教えの一つで、すべてのユダヤ主義がそうであるとは言いませんが、教えの中に、神殿を取り戻してくださる方がメシヤであると教えます。神殿の区域はすべてのユダヤ人の聖地で、ムスリムのモスクによって今も支配され、ユダヤ人は、実際には全地域を政治的に支配しているにも関わらず、そこへ行くことすら許されていません。私は個人的に、もし一人の政治家が現われ、中東で何らかの介入をすることができ、ユダヤ人のためにその場所にユダヤ人の神殿を立てる権利を得るなら、ユダヤ人は熱狂的にその人物をメシヤとして歓迎すると思います。そして、その人物は全世界のユダヤ人の全コミュニティにアピールするでしょう。そして、私はそれがあまり遠くない未来ではないかと思うのです。

では、反キリストのもう一つの主な現れを見ていきましょう。これは、クリスチャンとしてこの時代について知っておくべき、非常に、非常に重要なものの一つです。それは、ムハンマドの宗教として知られるイスラム教です。イスラムとは、完成、完全性、成就という意味です。

ムハンマドは、7 世紀にアラビア半島で現れ、預言者であると宣言し、洞窟で大天使から後にイスラムとなる宗教の啓示を受けたと主張しました。そして、ムハンマドはその自分の宗教イスラム教は、旧約聖書と新約聖書の真の成就であると主張しました。彼は、クリスチャンと福音は本当の真理をゆがめたが、イスラム教を通して自分はそれを回復していると主張しました。それが、ムハンマドの基本的主張です。そして、彼は偶像礼拝を拒絶し、またキリスト教の主張を拒絶したので、ユダヤ人は自分に従うであろうと考えていたのです。しかし、彼は失望することになります。そして、ユダヤ人が従わないため、彼はユダヤ人に背を向け、ユダヤ人の迫害者となりました。

イスラム教の教えを見てみましょう。これは私の個人的な意見ですが、現在イスラム教は世界に働く神の真理に

敵対する最も邪悪で力強い力だと思います。西洋であまりにも多くのクリスチャンがイスラム教をまったく誤解し、過小評価してきたことは悲劇的です。いったん、イスラム教が力を持てば、まずユダヤ人を抑圧し、次にクリスチャンを抑圧するでしょう。何世紀にも渡り、ムスリム国において、クリスチャンとユダヤ教徒は二流階級の人々という意味の *dimmy* という肩書が与えられました。周りにユダヤ教徒やクリスチャンを有するより、むしろ、彼らを低く卑しい状態に保つ方が、イスラムがより優れていると誰の目にも明らかにさせ、好都合なのです。

妻と私は、1985年にパキスタンで福音を宣べ伝えていました。私たちに最初にしたことの一つは、首都のカラチでクリスチャンのコミュニティを訪問するために連れて行かれたことです。私は、その不潔と貧困、劣悪な状況を見たとき、自分が病気に罹ったようなひどい感覚を今も覚えています。

通りにはむき出しの下水道があり、トイレは外でした。そしてこれが、パキスタンの人々に示されるキリスト教の姿でした。それがイスラム教徒に好都合だったのです。イスラム教徒は彼らを完全に排除したかったのではなく、ただクリスチャンの上にムスリムの完全な優越性を示したかったのです。たとえば、ムスリムは決してトイレを掃除しません。ですから、パキスタンの掃除夫はすべてキリスト教徒です。それが基本的にパキスタン人のキリスト教への見方です。これは、イスラムの国々において、ユダヤ教徒とクリスチャンがどのように完全に抑圧され、下級の少数派とされているかという数えきれない例の一つに過ぎません。クリスチャンの誓いは、イスラム教の裁判所では受け入れられません。ムスリムに対するクリスチャンの証言は受け入れられないのです。

イスラム教がホロコーストのように恐ろしい罪を犯してこなかったのは本当ですが、13世紀間もの長期にわたるクリスチャンに対する抑圧とさげすみがあります。彼らがクリスチャンを完全にさげすんで見ていることを理解していない人にとっては難しいことです。あわれみや赦しのようなクリスチャンの恵みと伝統は素晴らしいものとみなされますが、ムスリムにとってそれらは単なる弱点に過ぎません。現在の中東情勢は、西洋の政治家たちはたとえクリスチャンでなくても、クリスチャンの視点を持っています。彼らにはその背景があり、あわれみ、平和、赦しについて語ります。ムスリムにとってそれらはナンセンスなのです。ムスリムの考え方では、復讐は神聖な義務です。私はただ、必ずしも明らかになっていない、まったく異なる霊があることを明らかにしたいのです。

私が指摘したように、ほとんどのイスラムはしるしを持っています。それは旧約聖書と新約聖書のつながりで始まりました。神の啓示からのものであると主張しました。しかしそれは、クリスチャン信仰の特定の基本原則を否定します。十字架のイエスの贖いの死を否定します。ムハンマドは、イエスは死ななかったのだと教えました。一人の御使いが来て、イエスが死ぬ前に十字架からひそかに連れ去ったと。死がなかったので、贖いはなく、贖いがないので、赦しもないのだと。そしてムスリムはいかなる時も、誰一人罪の赦しの保証がないのです。

次に、彼らはイエスが神の御子であることを、狂信的な激しさで否定します。あなたは預言者としてのイエスについてムスリムと語るができますが、彼らはあなたに慎重に注意を払います。事実、コーランは預言者として、救い主としてさえ、またメシヤとしてのイエスを認めています。しかし、あなたがイエスは神の子であると言うとき、激しく憤慨して反対をあらわにします。かつてソロモンの神殿があった場所に建てられた、岩のドームと呼ばれる有名なモスクの周りには、アラビア語で神には子が必要ないと2回刻まれています。これに遭遇するまで、あなたはこの対立の激しさについてまったく見当も付きません。

そして、お話したように、イスラムは神格の父と御子の関係を否定します。興味深いことに、ユダヤ教徒イスラム教の2つの宗教がどちらも中東で起こりました。イスラエルツアーに行くと、ガイドはおそらく中東はユダヤ教、キリスト教、イスラム教という3大宗教の起源であると言うでしょう。

私の推測ですが、あなたに少し考えていただきたいことは、反キリストの霊はイエスを排除することにおいて、キリスト教会の中で成功するでしょう。私たちは、最終的にイエスなしのキリスト教を持つのです。道徳制度、律法制度、あらゆる種類の美しさに満ちた宗教となるでしょうが、イエスなしです。そして、いったんイエスを排除すれば、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の統合への道を開くことになります。私は個人的にこう考えるようになりました。反キリストはそのような、ユダヤ教、イスラム教徒、背教のキリスト教を結びつけた宗教に向かうでしょう。それは長い道のりだと思います。法王とカンタベリー司教の2人を考える時、近年、イスラム聖職者やあらゆる類のヒンズー教、アメリカン・インディアンが兄弟姉妹として歓迎された式典がキリスト教の教会で行なわれました。そのようなことは新聞で読むことができますが、それは反キリストの霊です。その目的は、イエスを排除することです。イエスはつまずきの石なのです。十字架はつまずきの石なのです。十字架のイエスを捨て、キリスト教はあらゆる類の宗教と合併し、私たちはその方向へ向かっていると私は思うのです。それは私の個人的な意見です。それらに対する私たちの態度と対応に非常に用心深くなければなりません。なぜなら、偽りの霊が働いていると思うからです。

そして、これもお話ししましたが、多くの部分的反キリストや反キリスト教制度があります。たとえば、30年前、私は教育者としてケニアにいました。そして、私はケニアの初代大統領ジョモ・ケニヤッタをある点において個人的に尊敬していました。しかし、ケニアの独立運動の期間におけるマウマウ団の乱の際、マウマウ団の支持者は、宣教師が教えたキリスト教の讃美歌のイエスの部分をすべてジョモに置き換えました。それはまた、反キリストの霊の単純な一例にすぎません。私は、ジョモが反キリストだと言っているのではなく、彼はクリスチャンではありませんでしたが、ある面においては良い人でした。彼は良い仕事をしたとは思いますが。私は彼の批判者に加わりたくはありません。しかし、彼には反キリストの霊が働いていました。

では、反キリスト者の中の反キリストの霊の最終的な現われを見ましょう。私たちがこれまで取り扱ってきたものはなお将来のもので、それが将来のものでないとしたら、私はまだそれを見いだしていないということです。ですから、これは間違っている可能性もあり、私が示すすべてが正確な方法であると独断的な主張をしているのでは決してありませんが、少なくともあなたが反キリストの霊を無視しないように、私は聖書のこれらの非常に重要な箇所にああなたの注意を向けたいと思います。サタンの策略に気づかずにいることがないように、そしてその策略がどれぐらい果たされているかについて、なんらかの意見を持つことができるようにするためです。

まず、第Ⅱテサロニケ2章を開きましょう。そこは、反キリストの外見、啓示、出現を主に取り扱っている箇所です。それはまた、主の再臨のための備えも取り扱っています。もちろん、それらは非常に密接に織り交ぜられています。なぜなら、主の再臨の前の最終的なサタンの行ないは、反キリストだからです。事実、パウロは言っています。

「主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。」



個人的には私は英雄になりたいとは全く思っておりません。私はイエスが反キリストを取り扱ってくださることを待ち望んでいます。イエスだけがそうすることができる唯一のお方です。真のキリスト、真のメシヤが再臨される時、偽キリスト、偽メシヤを取り扱おうと思います。それがイエスの再臨の主な目的の一つであると考えます。反キリストを打ち負かし、破壊し、倒すことです。

ともかく、第二テサロニケ 2:1-3 を読みましょう。まず、1-2 節です。

「さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いすることがあります。霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。」

近年よくなされる預言的メッセージの一つに、イエスは9月12日に来られるというのがありました。これがイギリスで広まったのかどうか分かりませんが、アメリカで多くのクリスチャンがそれを信じていたことは驚くばかりです。それは、少なくともアメリカ人クリスチャンの恐ろしいほど極端な無知さを示しており、他の国々のクリスチャンはもう少ししかどうかも分かりません。つまり、イエスがユダヤの新年に当たるロシュ・ハシナに来られると言った教師を信じた何千人もの人々がいたのです。イエスが来られなかったことで、彼らは本当に恥をかいたとは思えません。それは驚くべきことです。彼らは、完全に間違っていたあと今もなお、人を信じ続けることができます。

それはともかく、私はパウロがなぜこれらのことばを書いたのか理解できます。「霊によってでも、あるいはことばによってでも…すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。」サタンの図太さは、まるでパウロによって書かれたかのように手紙にパウロの名前をサインし、パウロの名前で人々が手紙を受け取るようにすることもできます。

私の友人に、良き兄弟であり、名前を上げればほとんどの方が知っておられる牧師がいるのですが、彼はある教会で牧会をしていたとき、自分の教えのテープを広めていました。非常に誤った教理を持っていたグループがあり、その牧師のテープを手に入れ、テープのB面に彼に許可を得ずに自分たちの教えを録音して、彼に返し、その教会がその牧師の教えのテープを貸し出すときに、B面にまったく誤った教えが入ったテープを貸し出していたのです。サタンに神経がないなどと思わないでください。彼には無限の神経があります。その図太さは限りがありません。

「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。」

「背教」という言葉は、ギリシャ語で *apostacia* です。啓示された真理を意図的に拒絶するという意味で、私たちは、背教の時代に生きていると思います。それについては、あとでお話します。

「なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。」

このように、さらにもう二つの反キリストの肩書きがあります。彼は不法の人です。神と神の律法への拒絶に対する

人間の反逆の究極的な化身です。そして、彼は滅びの子であり、失われた永遠へと向かっています。興味深いことに、新約聖書にもう一人、滅びの子と呼ばれているのが、イスカリオテのユダです。彼は偽の使徒でした。

ここで再び、キリスト教の教会に何らかの方法で結びつくことから始めるこの人物を暗示するものを見ていきましょう。私は個人的に、彼はカリスマ的であると思います。私が意味するのは、超カリスマです。(Ⅱテサロニケ 2 章 4 節)

「彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。」

私たちは今それ以上詳しく述べません。しかし、同一の存在に、反キリスト、不法の人、滅びの子という3つの異なる名前があります。そして、黙示録 13 章にもう一つ重要な名前があります。黙示録 13 章を開きましょう。1 節から 2 節です。これは、ヨハネの見た幻の一部です。

「また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口は獅子の口のようであった。竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。」

竜とはだれですか。そう、サタンです。それはまったく明らかです。

ここは、サタンが自分の力を与える者を起こす箇所です。サタンは、なぜ、この者に力を与えるのでしょうか。なぜなら、その者は人類全体への支配権を手にし、サタンが最も欲していること、すなわち、自分が礼拝されることを全人類にさせる力、あるいは説得させることができるからです。それがサタンのゴールです。サタンはそのために、何世紀もの間、忍耐強く、粘り強く働いて来ており、今や、その自分のゴールの達成に非常に近づいています。続けましょう。3 節です。

「その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い……」

ここに一種にせの復活があります。この者が暗殺されるのかどうかわかりません。彼は明らかに死にますが、生き返ります。もし、ケネディ大統領が暗殺後に生き返っていたら、アメリカでは何が起こっていたでしょうか。ケネディ大統領に自分を売り込む人が多くいたことでしょう。4 節に進みましょう。

「そして、竜を拝んだ。獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、『だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう』と言った。」

それが 4 つ目の肩書きです。獣、野獣です。ギリシャ語では、ひょうやライオンなどの野生の肉食動物という意味です。

黙示録には非常に思慮深い2人の対比があります。獣は、サタンの支配者で、小羊は神の統治者です。このことを私たちの霊の中に覚えておくことは非常に重要で、私たちは獣の性質を育てるのではなく、小羊の性質を育てなければなりません。イエスの公生涯の初めに聖霊が下る時、どのような性質を持った人物を探していましたか。そう、小羊です。バプテスマのヨハネは、「見よ、神の小羊。」と言い、イエスの上に聖霊が下りました。これは、私たちひとり一人にとって大きなことの一つであると思います。なぜなら、今日の世界は非常に競争的で、感情的なので、獣の性質を私たちに浸透させ始めることは、かなり簡単なほど人々は非常に極端で暴力的になっています。しかし、神が私たちに臨んでおられるのは、小羊の性質です。

黙示録5章で小羊の性質を見てみましょう。あまりたくさん読まず、5節から始めます。ヨハネは、神の手にある巻物の幻を見ましたが、だれもその巻物を開くのにふさわしい人がいませんでした。それで、ヨハネは泣いていました。

「すると、長老のひとりが、私に言った。『泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。』」

つまり、獅子は小羊です。それは、思慮深い矛盾です。神の示された統治者は獣の性質を持っていません。小羊の性質を持っているのです。そして、彼は、ご自身のいのちを捧げられたので、すべてのものの上に高くあがめられます。彼はご自身を低くされたからです。彼は従順と謙遜の道を歩み、ご自分を捕らえる者と迫害する者を拒まなかったため、今ある教会は、その同じ性質を現わさなければならないと私は心から願います。そして、それは簡単ではないでしょう。

このことをお勧めします。これはみんなからは好まれない提案です。教会は十字架の道によって教会の主として、同じ道で立ち返ると思います。私たちは勝利するでしょう。Ⅱコリント12:9にあるように、「わたしの力は、弱さのうちに完全に現れる・・・」のです。それは、私たちが学ばなければならないものです。今日、教会には私たちができること、私たちのちから、信仰により達成できるものなどについての多くの教えがありますが、それは、実は生まれつきの人、肉の人を慢心させるものであり、その性質は、私たちのための神の目的の中へ入ることができる前に十字架につけられなければならないと、私は思います。

私たちは小羊を礼拝し続けることができますが、残りはご自身で読んでください。黙示録13章に戻って、いくつかのみことばを部分的に見て行きましょう。人々がみな、獣を拝んでいるのを見ってきました。そして、彼らは獣と闘うことは絶望的であると確信していました。

何が起こるか誰もわかりませんが、あらゆる核兵器で武装した世界の支配者が権力を手にし、誰ひとり何を持つことも許されず、つまり、誰も彼と戦おうとしないでしょう。戦いを考えることすら自殺行為です。それが起こるとは言っていないですが、この箇所での姿が非常に間近に迫っている状況であることを言いたいのです。黙示録13章6節。

「そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。」

彼は、公けに神に挑戦しました。彼は隠れた敵ではなく、全能の神の顔にこぶしを振りかざします。そして、そのようなことが起こることもまた、非常に間近に迫っているのです。7 節。

「彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで…」

聖徒たちとは私たちであることを願います。私がそう願うという時、それはあいまいな希望ですね。私は聖徒でありたいですが、獣が私に戦いをいどむことを望むでしょうか。あなたは、どちらかを選択しなければなりません。

「彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され…」

私は、キリスト教はすべて楽勝というわけではないことをあなたの思いの中へ教え込ませたいのです。事実、私はある意味において、私たちの信仰は、明らかに勝利、打ち破りでありたいと願いますが、実際に打ち破れないことも含まれるのです。

ご存知のように、イエスは、この世界の意見についてほとんど関心がありません。それについて考えたことがありますか。イエスの最後に公けの姿は何でしたか。十字架上の遺体でした。イエスは決してその姿を修正しようとはされず、イエスを信じた者以外に再び現れることはありませんでした。私たちは、この世の意見にどれほど多く関心を持っているでしょうか。それ以上に関心を持ちますか。パウロは言いました。

「しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。」

先へ進みましょう。

「地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。」

これは印象的な言葉です。全人類がイエスのために選ばれた人々、すなわち世の初めから小羊のいのちの書に名前が書かれている者以外は、獣を拝むようになるのです。

それから、ここで簡単に別の非常に邪悪なものが見られます。2 匹目の獣です。11 節です。

「また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。それには小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。」

彼は、小羊のように見えたが、実際は竜の声を持っていました。これは宗教的人物であると思います。一般論として、彼はにせ預言者と呼ばれます。そして、そのにせ宗教は、にせメシヤと手を組むと私は思います。そして、これはすでに起こっていることをあなたにお伝えしたいのです。たとえば、中国では、現時点でディン主教のもと、三自

愛運動が無神論の共産主義と完全に結びつき、真のクリスチャンの主な迫害者となっています。そして、かなり同様のことがロシアでも起こったと思います。ロシア正教会の上層部はスターリンを完全に支持し、現在それについて何とすべきかという、やっかいな時代になっています。

このように、政治的な統治者が宗教の重要性を評価し、自分の力を指示する虚偽的な形式で宗教を取り込むであろうと私は考えます。12 節。

「この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。」

これ以上詳しくお話しする時間はありませんが、偽の三位一体に注目してください。中世の時代の古代教会は、ラテン語を使い、*Diabolos Sinios Dei* (デアボロス・シニオス・ディ)「悪魔は神のものまねである」と言っていました。彼は決して、まったく新しいものを思いつくことはありません。彼ができることは、神がすでになされたことの粗悪なコピーを作ることです。ですから、偽の三位一体があるのです。お分かりですか。サタン、獣、にせ預言者です。そしてある意味、間違った教会のイメージを作り上げるのです。

締めくくりとして、Ⅱテサロニケ 2 章に戻りましょう。その鍵となる節に戻ります。Ⅱテサロニケ 2:3です。

「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。」

お話ししたように、「背教」は、啓示された真理を意図的に拒絶するという意味です。今日私たちは世界で背教に囲まれていると思います。何世紀にも渡って、邪悪で不道徳、貪欲なクリスチャンや教会の指導者たちがいましたが、彼らはクリスチャンの偉大な基本的真理を公けに否定してはきませんでした。事実、それらの真理は彼ら自身の力を支えるために用いられた手段となりました。しかし、現在、おそらくドイツには、イエスの神性、処女降誕、贖いの死、肉体を持った復活、そして再臨という、キリスト教信仰の偉大な基本的真理を否定してきた教会のリーダーたち、教会の公式代表者たちがいます。彼らの多くは、キリスト教会で栄誉と権威の地位を占めています。イギリスでは、みなさんも知ってのとおり、聖公会の司教の 3 分の 2 が、もともとイギリスの一つの町の司教によって作られたその声明に基本的に合意しています。私は誰かを攻撃しているのではなく、単純にこれまで存在してこなかったであろうものが、今世紀の特徴であると指摘しているのです。私はすでに、私たちが背教に直面していると思います。そして、教会は誤りに対する防波堤です。ですから、サタンは手違いで正体がばれる前に、教会に侵入する必要があります。